

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山商業高等学校

校長名：中村 憲司

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）				学校評価の公表方法			現状進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
1 時代の変化に柔軟に対応しうる豊かな感性と自ら学ぶ意欲を持ち、何事にも主体的に行動できる生徒。 2 知・徳・体のバランスがとれ、資格取得や部活動、自分の進路実現に向けて心と身体を鍛えられる生徒。 3 地域や社会の発展を担う人財であることを認識するとともに、伝統文化を大切に、将来にわたって地域に貢献できる生徒。				本校のホームページに掲載する。					
自己評価（分析、計画、取組、評価）				評価（2月17日現在）			C	あまり十分でない。（40%以上）	
番号	計画・取組		評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策			D
	重点目標	現状					具体的取組		
1	基礎学力の定着及びICTの活用による主体的・対話的で深い学びを実現する。	B	① 積極的に公開授業を行い、ICT機器の活用方法やALの手法を研究し、授業改善を図る。 ② 生徒による授業評価の実施と、その活用による授業改善を行う。 ③ 地域や経済界との連携等により、生徒自らが学ぶ体験型学習や課題解決型学習を充実させ、生徒の学習意欲、学力の向上をはかる。 ④ 予習や復習の宿題を意図的に課すことによって、家庭学習時間を確保する。	B	① 公開授業を実施し、教員による自己評価を行なうことで授業改善につなげた。 ② 生徒の授業評価において80%以上が肯定的な回答をしている。 ③ 生徒の授業評価においてもAL型授業やグループ学習について肯定的な意見が多いが、コロナ禍によってグループ学習が実施しにくい状況である。ICT機器の活用では、デジタル採点の研修を行い、生徒へのフィードバックを充実させることができた。	① 生徒の現状を考えた授業展開や基礎学力向上策を継続して考える。学力状況の正確な把握が必要である。 ② 新学習指導要領実施にともなう授業改善や評価方法の研究を今後も実施していく。また、ICT機器の活用などで生徒の現状をふまえた効果的な授業方法の検討が必要である。 ③ 宿題を意識的に課し、予習・復習の機会を増やすコンテンツの開発やICT機器の積極的活用など、指導を充実させる必要がある。	学校関係者評価（2月22日実施） <学校間の連携について> ① 読み聞かせ等による、和歌山商業高等学校図書部と砂山小学校との連携は非常に評判がよく、小学生たちが大変喜んでいる。小学校でのキャリア教育の実施において、小学生のグループに高校生が加わり、成果を上げている。今後は、地域の清掃活動などにも連携して取り組んでほしい。 ② 和歌山商業高等学校とは、課題研究で年間継続して連携している。園児たちはいつも楽しみにしている。園児たちの安全確保に課題はあるかも知れないが、美化活動における園児たちとの連携をお願いしたい。 ③ 大学との連携は十分できていると思われる。志望者が増加したから連携がとれているということはなく、目的意識を持って入学し、入学後もしっかりと活躍することによって連携が図られると考える。 <コロナ禍における取組について> ① 特に3年生は高校入学が休校からはじまり、学校行事の縮小や中止など、苦しい3年間を過ごしたと考えられる。昨年も、コロナ禍ではあるが様々な取組に工夫をとる意見があったが、工夫を考え実行していく中で、3年生は強さを身につけることもできたのではないかと考える。このことは、ピンチをチャンスに変える、コロナ禍がよい方向に向いたとも考えられる。 ② 1、2年生は、遠隔授業が増加し、友人たちとの連携やコミュニケーションの取り方等においてうまくできていない面もあるのではないかと考える。ICTの活用は今後もより一層求められると思うが、その活用方法を考え直し、五感を使って心や感性を育む取組が必要であろう。 ③ 和歌山商業高等学校では、コロナ禍に対する対応はできていると考える。検定試験の結果や進路結果がそれをあらわしている。しかし、その取組を保護者に発信する力が弱いと思われる。今後は発信力にも力を注いでいただきたい。		
2	生徒の希望進路を実現させる取組を充実させる。	B	① 「キャリアデザイン」（1年次、総合的な探究の時間）の授業で、進路意識を育てる。 ② 希望進路の実現のために、進学・就職に関する丁寧な個別指導と補習、卒業生によるガイダンスなどを実施する。 ③ 連携協定を結んでいる大学との交流を深め、進学への意識を醸成させる。 ④ 進路希望実現後の事後指導を徹底し、次のステップへの高い意識を持たせる。	A	① 2月17日時点で国公立大学4名、看護医療系大学32名、看護医療系専門学校16名、関西中堅・難関私立大学延べ34名など進学指導を充実した成果が現れた。 ② 公務員希望者は3名合格した。 ③ 1級3種目以上の合格者は106名と大幅に増加し、成果を上げた。 ④ 就職内定率100%を実現した。 ⑤ 卒業生に講演を依頼し、進学・就職において現役生に有益な情報を提供することができた。現役生の進路選択をする意志決情報を提供することができた。現役生の進路選択をする意志決定に良い影響を与えた。	①⑤ 進学希望の生徒たちを対象の補習を充実させた。その結果、多くの生徒が希望を叶えることができた。今後は、低学年から進路への意識を高めるために、大学や学部、学科でどのようなことが学べるかなど自ら調べる仕掛けが必要である。 ①② 大学や公務員合格に向けて、補習をより充実させる。 ③ 多くの生徒が3種目以上を達成した。検定取得に向けて、先輩から後輩へアドバイスを伝える取り組みが必要である。 ④ 就職のICT化を進め、生徒が企業研究をしやす環境を整える必要がある。			
3	部活動をはじめ学校行事、生徒会活動の活性化による社会性や協調性、道徳心を育成し、積極的な地域との協働をはかる。	B	① 学校行事を通して、生徒相互の連帯感や思いやり、自主性、自立性を養う。 ② 生徒会活動や部活動への積極的な参加を働きかけ、人間関係形成能力を育てる。 ③ 部活動での成果を積極的に広報する。また、生徒会を中心に校内及び学校周辺の通学路等の清掃活動を行う。	A	① 学校行事については、3年生を中心に積極的に取り組み、アンケート結果では約89%が肯定的であり、昨年度の85%より向上した。 ② 生徒会執行部と、不定期ながらも意見交換を行った。 ③ 各種大会において、優秀な結果を収めた、または前年度成績を上回った部活動が多く、表彰伝達等を通じて広報し、加入率の向上を図った。	①② 体育祭や文化祭などの学校行事には、生徒のコミュニケーション力や協力して課題を解決する力を育てる絶好の機会と捉え、指導や支援を強化する。感染症防止のために制限してきたことについて、生徒側からの要望を受け、今後再実施できるか検討し、生徒側のモチベーション向上につなげる。 ②③ 今年度当初に部活動が任意加入であることを生徒に周知したところ、加入率は減少した。しかし、これまでは生徒に対して任意加入と呼びかけながらも何らかの部活動に加入しなければならぬ風習があり、全く活動実態のない部員も多かった。今後は、部活動に対して魅力を感じ、強い意欲を持って加入する生徒の育成を推進する。			
4	挨拶の励行、規範意識の高め、安全で安心な学校運営を行う。	B	① 日常的な挨拶の励行と、授業開始・終了時の挨拶の指導を徹底するため、全教職員から積極的に挨拶を行う。 ② 全教職員が、積極的に生徒と関わり、日頃からの身だしなみ等の指導を行う。 ③ 遅刻報告カードを活用し、度重なる遅刻については、担任・生徒・保護者で面談等を行い、指導する。 ④ 毎日の校門指導及び定期的な街頭指導や、警察等の外部教育力を活用し、生徒の意識向上をはかる。	B	① 朝の校門での挨拶・校内での挨拶について、以前より積極的に出来る生徒が減少している。また、挨拶にも元気がない。 ② 身だしなみ等について、日頃から声をかけながら指導しており、中にはルールを守れない生徒がいる。 ③ 遅刻についても増加傾向にある。特に同一人物が常習的に遅刻してくる。継続的な指導が必要である。 ④ 通学時の自転車事故については減少し、苦情も減少したが、ルール違反やマナー違反はまだある。 ⑤ 学校周辺の清掃活動を5月より月1回実施した。	① 挨拶については、教員より積極的に挨拶し、以前のように元気よく挨拶が出来る集団にしていきたい。 ② 身だしなみについては、全教職員で取り組み統一した指導で改善していきたい。規範意識の向上。 ③ 遅刻については、常習的に遅刻する生徒について、担任と本人・保護者を交えて改善に努めたい。 ④ 今年度のセーフティーカード違反別警告件数報告等をもとに、改善に向けて生徒の指導が必要である。			